

学校関係者評価報告書

(令和 6 年度)

令和 7 年 3 月
四国大学附属認定こども園

学校関係者評価会議

場 所・・・四国大学附属認定こども園
乳児棟 子育て支援室

日 時・・・令和 7 年 1 月 28 日 (火)
10:00 ~ 12:00

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は、大学関係者・保育所関係者・幼稚園関係者・福祉関係者・地域関係者等の学校関係者で構成された四国大学附属認定こども園学校関係者評価委員会が、こども園の教育・保育活動の観察及び教職員との意見交換や各職員自己評価・保護者アンケートなどを通じた同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

1. 学校評価の目的

学校評価は、以下の3つを目的として実施するものである。

- 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

出展：文部科学省資料、幼稚園における学校評価 ガイドラインより

2. 学校評価に係る実施スケジュール

令和6年 7月～

令和6年12月 学校評価委員依頼・園行事等の参観

(学年別こども園祭参観・0・1・2歳クリスマス会案内)

令和6年 6月 教職員自己評価アンケート実施

令和6年12月 教職員自己評価・職員評価実施

令和7年 1月28日 学校関係者評価委員会

(自己評価の結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等)

3. 学校関係者評価委員会委員

近藤 総一郎 医療法人鈴木会 介護老人施設 ライフケア応神事務長

佐藤 文子 元中学校校長 元徳島市教育委員会委員長

濱井 利教 元応神公民館館長 元応神コミュニティ協議会会长

松浦 光 学校法人四国大学 四国大学附属幼稚園元園長 応神町民生委員

森崎 美代子 社会福祉法人四国大学福祉会 西富田保育所元所長

(50音順)

濱井 利教様 体調不良により当日欠席

4. 学校評価結果

【4段階評価の基準】

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んでいるが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

評価項目ごとの評価

「評価項目ごとの評価」では、評価項目①から③において、当該評価事項が達成されているかどうかの評価結果（4段階評価）及びその根拠・理由を記述する。

評価項目① 教育・保育研究

観点： 保育教諭同士が学びや課題を語り合う中で、保育者としての専門性を高め、保育実践力を磨いていく

【評価結果】

以下の内容を根拠として、4段階中の「A 十分達成されている」と判断された。

【根拠・理由等】

- ・園内研修では、今年度もWeb講座の視聴を取り入れグループで話し合いを進めることで、新たな発見や保育を見直す機会になっていて、保育の充実につながっていることがわかる。
- ・ドキュメンテーションの作成は、昨年度よりさらにレベルアップしていて、大変だったのではと思う。とても良いものだが、情報量が多くなると深く見てもらえない可能性がある。言いたいことがいっぱいになると、一番伝えたいことが読み手に伝わりにくくなってしまう。
- ・ドキュメンテーションの中に、失敗体験と成功体験の両方があるともっと訴えられるものがあるのではないか。
- ・今回のドキュメンテーションは発信力があり、表現の仕方もいい。先生たちみんなの頑張りが感じられる。1つの遊びについて作成してみるのも良いのではと思う。
- ・保護者も職員も共有できる情報を入れて、保護者への発信と職員の研修にも生かせるドキュメンテーションになることが理想。
- ・時間がない中でも、工夫しながら熱心に研修をしているのは素晴らしい。
- ・ダンスマープメントセラピーは、子ども達の動きが活発になっていいのではないか。写真を見るととても楽しそうで素晴らしい活動だと思った。毎回、振り返りを含めた研修をすることで、感覚統合遊びや子どもの発達についても学び、乳児保育の実践力の高まりが感じられる。

評価項目② 働き方改革

観点： 人員配置を工夫し、新規採用者の育成に注力することで保育者一人一人にかかる仕事の負担感の軽減につながっていく

【評価結果】

以下の内容を根拠として、4段階中の「A 十分達成されている」と判断された。

【根拠・理由等】

- ・ 社会全般に人手不足。ここ最近、園同士で職員の取り合いになっている。そんな中でも、今年度は新規採用者7名を各学年に配属することができている。新規採用者は、保育内容やクラス運営について学ぶことができるよう、また今年度正規採用者は、指導保育教諭のクラスに配属することで、一緒にクラス経営をしながら保育力向上を図ることができている。
- ・ 0・1歳児クラスに正規職員を複数配属することで、保育内容や環境構成などを一緒に相談したり分担したりしながら進めることができ、負担軽減につながっている。
- ・ 来年度新規採用者4名（期限付き職員）のうち1名は2年間アルバイトをしていたということだが、アルバイトも人材確保の一つとして考え、優秀な人材確保をしていくよ。来年度もアルバイトの学生さんを引き続き依頼し数年先の採用につなげられるようにするとよい。

評価項目③ ICT化に向けて

観点： 業務の多様化・複雑化への対応及び保護者との情報共有の迅速化を図るためにICT機能を増やしていく

【評価結果】

以下の内容を根拠として、4段階中の「A 十分達成されている」と判断された。

【根拠・理由等】

- ・ バスの位置情報が見られるということは保護者にとっては良い機能だと思う。今、子どもがバスでどの辺りを帰ってきているのかがわかると安心する。ICT化は私達にとっては新しい情報ばかりと思ってしまうが、保護者の方にとっては生活の中で当たり前のことかもしれない。それが導入されていることは心強いと思う。
- ・ ICT化を進める中で、前もっての説明や資料を配布するなど、保護者対応も丁寧に行えている。また園に来園されたときに質問に答えられるような体制にしているということだが、保護者の不安感も軽減されると思う。
- ・ ICT化は昨年度10月に開始してから、今年度はかなり進んだと思う。今後も様々な機能を上手に使い職員の業務負担の軽減につながるようにしていくよ。

5. 次年度へ向けての課題

今年度の取り組みを踏まえ、今回のご指導を真摯に受け止め、3つの評価項目を今後もより一層深めていきたいと思う。

○安全教育・安全対策について

○ICT化のさらなる充実に向けて（働き方改革）

○保育の充実

6. 本評価報告書の公表

本報告書は、設置者（理事長）に提出する。また、理事会・評議会での報告、ホームページへの掲載を通じて、広く社会に公表する。